2027年3月期 第2四半期 (中間期)
決算説明会資料

2026年11月12日

東武鉄道株式会社

社長の都筑でございます。どうぞよろしくお願いいたします。

まず、本日の決算説明会に先立ちまして、去る8月20日に東武日光線新鹿沼駅構内で発生した事故について、一言申し上げます。

4名の方がお亡くなりになる大変痛ましい事故を発生させたことを真摯に受け止めております。
あらためて、亡くなられた方々に謹んで哀悼の意を表すとともに、ご遺族の皆様に心よりお悔やみ申し上げます。
ご遺族の皆様をはじめ、関係する方々に多大なご心痛とご不安をおかけしておりますことを、深くお詫び申し上げます。

また、ご利用いただいているお客さまや地域の皆さま、関係者の方々に多大なるご心配とご迷惑をおかけしておりますことを鉄道事業者として極めて重く受け止めております。

当社では、背後要因も含めて分析するため第三者による委員会である事故検証委員会を設置いたしました。事故原因の究明と再発防止策の策定を進めてまいります。

それでは、決算説明会の資料にもとづきご説明させていただきます。

目次

Ⅰ.決算サマリ	P 2
Ⅱ.資本コストや株価を意識した経営の実現に向けた対応について	P 7
Ⅲ.長期経営ビジョンの実現・中期経営計画の推進	P 9
Ⅳ.持続可能な経営の実現に向けて	P28
appendix	P31

All rights reserved. Copyright © TOBU RAILWAY CO.,LTD.

弊社ホームページにも掲載しました「2027年3月期 第２四半期 決算説明会資料」をご覧下さい。

１ページ目次にございますとおり、
「Ⅰ．決算サマリ」から、
「Ⅳ．持続可能な経営の実現に向けて」まで、項目順にご説明をいたします。

なお、今回より、2027年3月期 第2四半期決算と通期見通しに関しましては、11月5日に弊社 ＩＲ室よりご説明しておりますので、私からは、そのポイントだけを簡単にご説明させていただきます。

Ⅰ．決算サマリ

All rights reserved. Copyright © TOBU RAILWAY CO.,LTD.

Ⅰ．決算サマリ　2027年3月期 2Q(中間期) ー 連結実績

鉄道業、百貨店業を中心に業績が堅調に推移し、対前年・対計画ともに増収・増益
政策保有株式縮減の推進等もあり、親会社株主に帰属する中間純利益は増益

- 営業収益は、鉄道業、ホテル業、賃貸業、百貨店業等において前年を上回り、全セグメントで増収。
- 営業利益は、鉄道業における減価償却費増等があったものの、全体では増益を確保。
- 経常利益は、減益となったものの、保有資産や政策保有株式の縮減推進等もあり、親会社株主に帰属する中間純利益は増益を確保。
- 対計画では、営業費用の繰延等があったほか、鉄道業、ホテル業、百貨店業を中心に増収となり、増益を確保。

単位：億円	2026年３月期 2Q実績	2027年３月期 2Q実績	増減	2027年３月期 2Q計画	増減
営業収益	3,107	3,177	70	3,165	12
営業利益	355	361	5	350	11
経常利益	337	334	▲3	315	19
親会社株主に帰属する中間純利益	240	317	77	280	37

※2027年３月期2Q計画は2026年４月30日公表ベース

All rights reserved. Copyright © TOBU RAILWAY CO.,LTD.

３ページをご覧ください。
2027年3月期 第２四半期決算のサマリでございます。

対前年では、鉄道の利用、ホテル・百貨店の需要などが堅調に推移し、鉄道業における減価償却費などコストの増加はございましたが、全体として増収・営業増益となりました。

経常利益は減益となりましたが、保有資産や政策保有株式の売却益などにより、最終利益は増加いたしました。

また、計画に対しては、鉄道業を中心に営業費用の繰延があったほか、鉄道、ホテル、百貨店等の増収が寄与し、増収増益となっております。

Ⅰ．決算サマリ　2027年3月期 2Q(中間期) ー セグメント別実績

	単位：億円	2026年3月期 2Q実績	2027年3月期 2Q実績	増減	増減理由	2027年3月期 2Q計画	増減
運輸事業	営業収益	1,094	1,119	25	●鉄道業、バス・タクシー業で増収	1,109	10
	営業利益	159	157	▲2	●鉄道業における減価償却費増等があり、減益	137	20
レジャー事業	営業収益	836	840	4	●ホテル業を中心に増収	832	8
	営業利益	79	74	▲5	●旅行業の減収減益に加え、ホテル業やスカイツリー業の原価・経費増等があり、減益	78	▲4
不動産事業	営業収益	266	273	6	●賃貸業、スカイツリータウン業で増収増益	277	▲4
	営業利益	72	76	4	●分譲業は供給戸数減等により減収減益となったが、全体では増益を確保	75	1
流通事業	営業収益	866	875	9	●百貨店業を中心に増収増益	871	4
	営業利益	30	39	9	●ストア業の利益率改善、新東武カード発行費用減等も加わり、増益	36	3
その他事業	営業収益	382	415	33	●完成工事増等により、増収増益	436	▲21
	営業利益	21	24	2		32	▲8
調整額	営業収益	▲337	▲347	▲9		▲360	13
	営業利益	▲7	▲11	▲3		▲8	▲3
合計	営業収益	3,107	3,177	70		3,165	12
	営業利益	355	361	5		350	11

All rights reserved. Copyright © TOBU RAILWAY CO.,LTD.

4

次の４ページでは、セグメント別実績に関し、対前年をベースにポイントを絞ってご説明いたします。

運輸事業においては、鉄道業が堅調に推移したことに加え、バスの運賃改定効果などもあり、増収を確保しましたが、減価償却費の増加などがあり、減益となっております。

レジャー事業においては、ホテル業ではインバウンド需要をしっかり取込み、増収となりましたが、旅行業の減益や、ホテル業、スカイツリー業における経費増などがあり、全体では減益となりました。

不動産事業においては、分譲業が供給戸数減などにより減収減益となりましたが、沿線商業施設、スカイツリータウンを中心に賃貸収入が増加し、全体では増益を確保しております。

流通事業においては、百貨店業を中心に増収増益となり、またその他事業においては、建設業における完成工事増等により、増収増益となりました。

Ⅰ．決算サマリ　2027年3月期 通期見通し

不動産事業、流通事業を中心に堅調に推移し、当初計画の営業収益・利益を確保
親会社株主に帰属する当期純利益も当初計画どおり増益見込み

- 鉄道業、賃貸業、スカイツリータウン業、百貨店業等において、営業収益は前年を上回る見込み。
- レジャー事業、その他事業における営業減益をカバーし、全業ベースでは、当初計画の営業収益・利益を確保。
- 支払利息の増等により経常利益は対前年で減益見込みである一方、政策保有株式の縮減推進等により、親会社株主に帰属する当期純利益は、当初計画どおり増益見込み。

単位：億円	2026年３月期 実績	2027年３月期 見込	増減	2027年３月期 計画	増減
営業収益	6,554	6,730	176	6,730	-
営業利益	718	720	2	720	-
経常利益	688	635	▲53	635	-
親会社株主に帰属する当期純利益	556	560	4	560	-

※2027年３月期計画は2026年４月30日公表ベース

All rights reserved. Copyright © TOBU RAILWAY CO.,LTD.

続いて、５ページは、2027年3月期の通期見通しでございます。

下期においても、鉄道、賃貸、スカイツリータウン、百貨店を中心に堅調に推移し、営業収益は前年を上回る見込みで、当初計画どおりの営業収益、また利益を確保できる見通しです。

全体の通期見通しは、当初計画どおりとなっておりますが、セグメント別の営業収益、営業利益については修正しておりますので、次ページでポイントを絞ってご説明させていただきます。

Ⅰ．決算サマリ　2027年3月期 セグメント別通期見通し

	単位：億円	2026年3月期 実績	2027年3月期 見込	増減	増減理由	2027年3月期 計画	増減
運輸事業	営業収益	2,186	2,237	51	●鉄道業、バス・タクシー業で増収	2,214	23
	営業利益	276	244	▲32	●鉄道業における減価償却費増等があり、減益	243	1
レジャー事業	営業収益	1,895	1,913	18	●ホテル業、スカイツリー業を中心に増収	1,992	▲79
	営業利益	184	185	1	●旅行業の減益はあるが、前年並みの利益を確保	193	▲8
不動産事業	営業収益	590	641	51	●賃貸業、スカイツリータウン業で増収増益	632	9
	営業利益	158	160	2	●分譲業の減益はあるが、増益を確保	158	2
流通事業	営業収益	1,761	1,773	12	●百貨店業を中心に増収増益	1,754	19
	営業利益	60	92	32	●ストア業の利益率改善、新東武カード発行費用減等も加わり、増益	80	12
その他事業	営業収益	926	969	43	●完成工事増等により、増収	950	19
	営業利益	69	64	▲5	●工事の利益率低下等を織込み、減益	71	▲7
調整額	営業収益	▲806	▲803	3		▲812	9
	営業利益	▲30	▲25	5		▲25	-
合計	営業収益	6,554	6,730	176		6,730	-
	営業利益	718	720	2		720	-

All rights reserved. Copyright © TOBU RAILWAY CO.,LTD.

６ページは、セグメント毎の通期見通しでございますが、対前年については記載した通りでございますので、ここでは、右側に数値を記載した、当初計画に対する修正内容をご説明いたします。

運輸事業、不動産事業、流通事業につきましては、下期も堅調に推移する見込みで、当初計画の営業収益、営業利益を上方修正しております。

一方、レジャー事業は、国内旅行の減などを見込んだ旅行業の減益、悪天候などによる入場者減を織り込んだスカイツリー業の減益の影響で、当初計画より引き下げております。

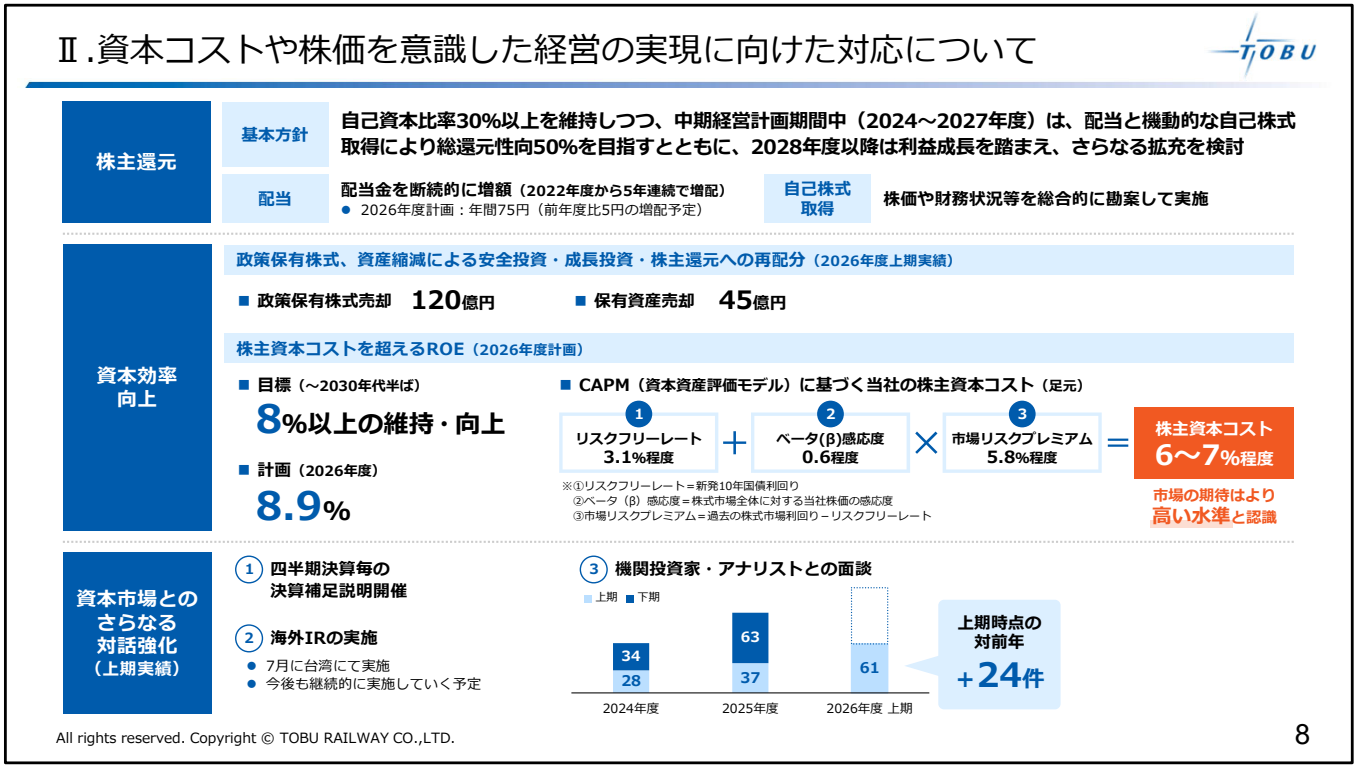
その他事業においても、完成工事は増加するものの、工事の利益率低下などを織り込み、減益の計画としております。

以上のとおり、レジャー事業やその他事業の減益を、運輸事業、不動産事業、流通事業でカバーし、全体では当初計画の営業利益を確保できる見通しとなっております。

Ⅱ.資本コストや株価を意識した経営の実現に向けた対応について

All rights reserved. Copyright © TOBU RAILWAY CO.,LTD.

7



次に、8ページをご覧いただきたいと思います。
「資本コストや株価を意識した経営の実現に向けた対応」でございます。

株主還元については、今後も、中期経営計画期間中の総還元性向50%を目指すなど基本方針に沿って実施してまいります。

また、さらなる資本効率の向上に向け、上期においては政策保有株式と保有資産の売却を実施いたしました。
これにより生み出した資金計165億円については、安全投資、成長投資、株主還元に再配分してまいります。

それらを含めた2026年度のROEについては、8.9%を計画しております。
当数値は、当社がCAPMに基づいて算出した株主資本コスト6～7%を超える水準となっておりますが、市場が期待している水準は、より高いものと認識しておりますので、引続きROEの引き上げに取り組んでまいります。

さらに、上期において、決算発表後の決算補足説明や海外ＩＲなどに取り組んだほか、機関投資家やアナリストの皆様との面談数は、前年より1.5倍以上となりました。
今後も、投資家の皆様との対話をさらに強化してまいる所存でございます。

Ⅲ.長期経営ビジョンの実現・中期経営計画の推進

All rights reserved. Copyright © TOBU RAILWAY CO.,LTD.

長期経営ビジョンの実現に向けた重点事業の着実な実施と事業ポートフォリオの最適化

中期経営計画で掲げる2027年度の営業利益740億円を達成した上で、観光事業・まちづくりの加速や東京メトロ有楽町線との新たな相互直通運転等の実現を通じ、2030年代半ばに1,000億円以上の営業利益へ

■ 基本方針

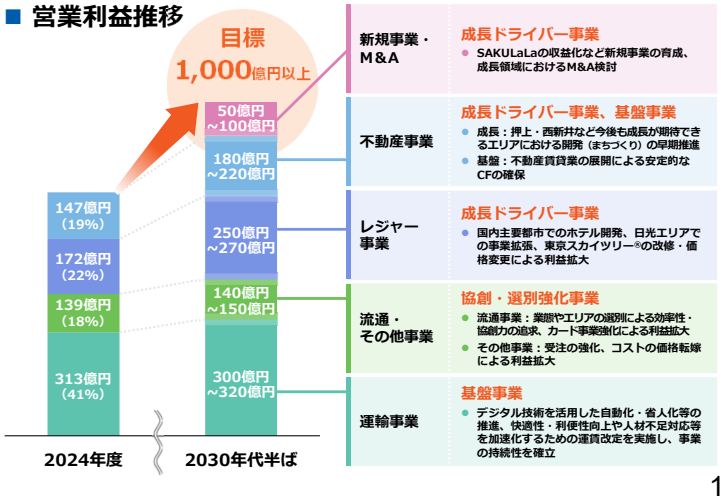
長期経営ビジョン

「挑戦と協創で進化させる社会と沿線」

事業環境やニーズ変化を進取する **挑戦** × 関係者との協力・連携で価値創出する **協創**

注力するポイント
1. 営業利益段階における非鉄道事業割合の増加
2. 観光需要を捉えた収益力強化
3. 持続的な事業運営体制の確立

■ 営業利益推移

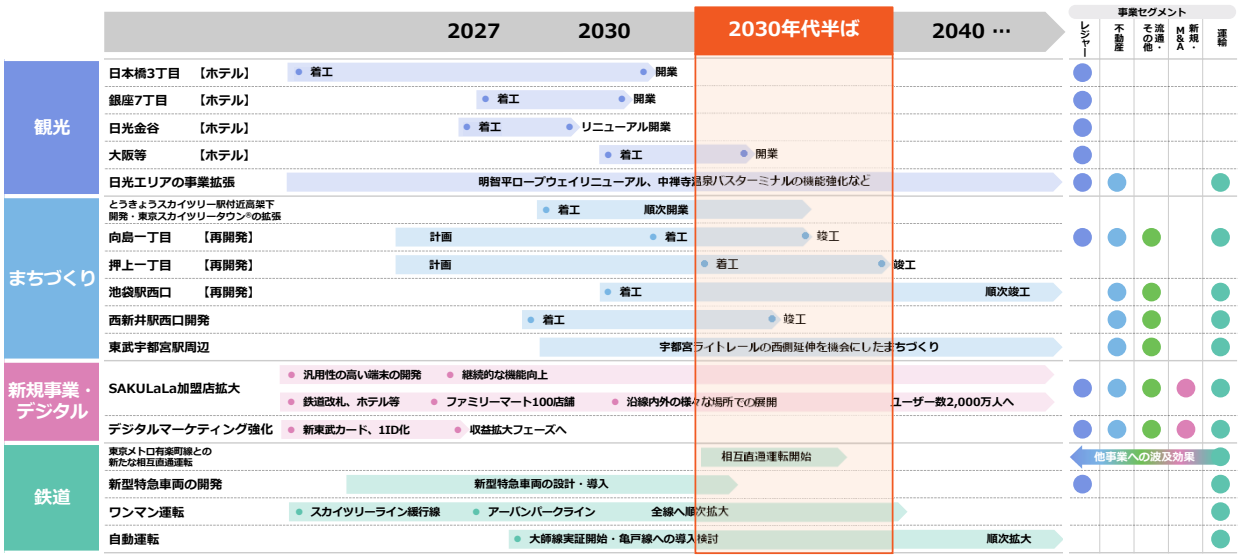


All rights reserved. Copyright © TOBU RAILWAY CO.,LTD.

10ページからは、長期経営ビジョンの実現と、中期経営計画の進捗についてです。

当社グループは、「挑戦と協創で進化させる社会と沿線」を基本方針に掲げ、まずは、中期経営計画の目標である2027年度の営業利益740億円をしっかりと達成し、そのうえで、観光事業やまちづくりをさらに加速させ、新しい事業も育てていくことで、2030年代半ばには営業利益1,000億円以上を目指しているところでございます。

長期経営ビジョンの実現に向けた主要プロジェクト

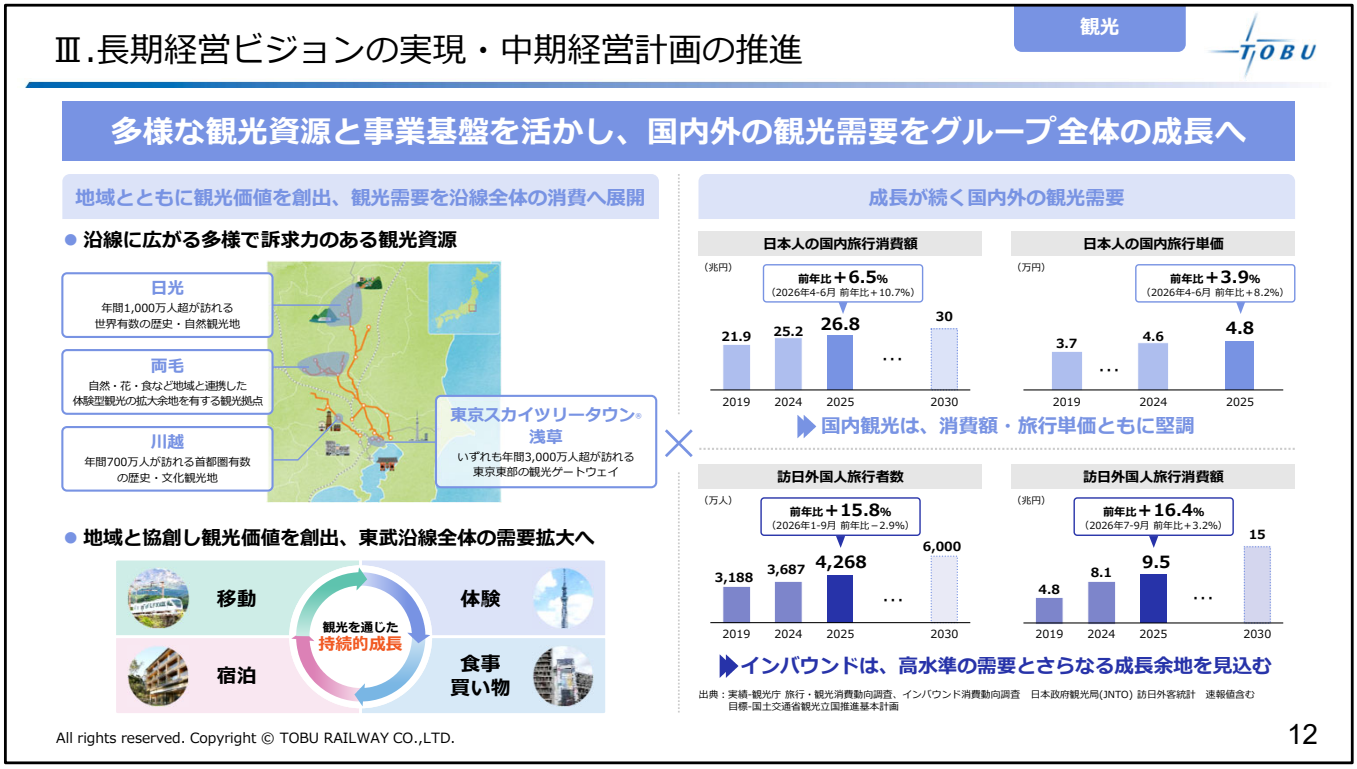


All rights reserved. Copyright © TOBU RAILWAY CO.,LTD.

11ページは、長期経営ビジョンの実現に向けて進めている主なプロジェクトを、時間軸で示したものです。
今回より、各プロジェクトが当社のどの事業セグメントに効果を及ぼすかを右に一表化いたしました。

収益化までの時間は長短ございますが、特にまちづくりや、新規事業・デジタルについては、それぞれの事業セグメントのみならず、グループの他のセグメントへのシナジー効果を創出し、互いを結びつけ、グループ全体の成長につなげることを重視しております。

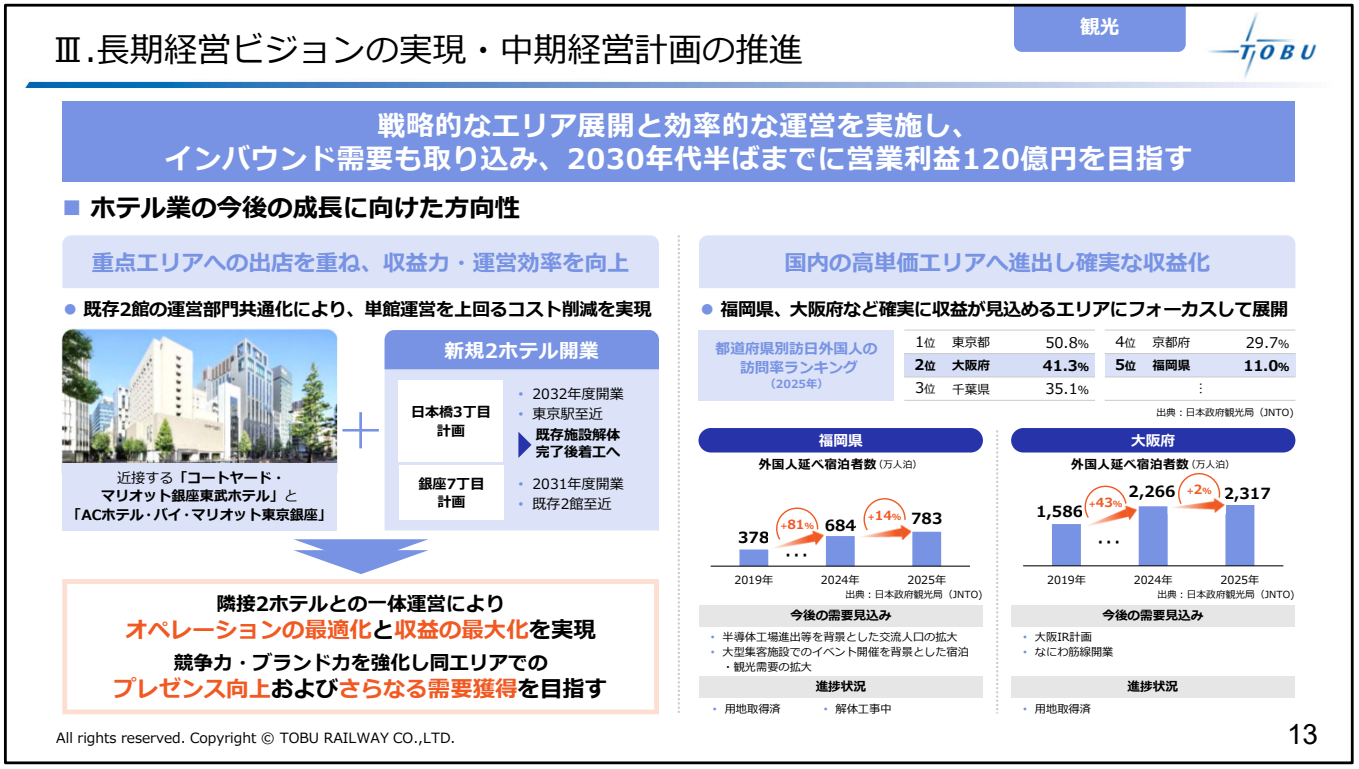
それでは、成長ドライバーなどの軸に沿って説明をいたします。



12ページでございますが、観光事業についてでございます。

当社沿線には、東京スカイツリータウン、浅草をはじめ、日光・川越・両毛など、多様で訴求力のある観光資源がございます。
そして、鉄道やバスといった移動に始まり、ホテルなどの宿泊、スカイツリーなどの非日常の体験、百貨店での買い物など、観光に関わる幅広いサービスをグループ一丸となって提供しており、地域と協創し観光を通じた持続的成長を目指しております。

そして観光市場を見ますと、国内旅行は、消費額、旅行単価ともに堅調に伸びを、インバウンドにつきましても、足元では旅行者数に多少の変動が見られますが、需要は引き続き高い水準にあります。
観光を成長ドライバーに置く当社グループは、この成長をしっかりと取り込んでまいります。



13ページは、観光事業の成長に伴うホテルについての説明でございます。

ホテル業では、東京・福岡・大阪など、高い宿泊単価と需要が見込めるエリアに、これまで蓄積してきた運営ノウハウを展開し、収益力を高めてまいります。これによりまして、2030年代半ばまでに営業利益120億円を目指します。

特に日本橋3丁目につきましては、解体工事の進捗に伴い、その後の工事見通しが立ってまいりましたので、開業予定を2032年度と改めさせていただきました。

また、福岡や大阪など、今後も高い宿泊需要が期待できるエリアにも展開してまいります。 福岡では交流人口のさらなる拡大、大阪ではIR計画などによる需要の拡大を見込み、これまで培ってきたホテル運営のノウハウを活かして、高単価を確保し、着実に収益につなげてまいります。

東京スカイツリー®の快適性向上と集客力強化を推進し、さらなる成長を実現

**高い集客力を基盤に、価格最適化と多彩な集客機会の創出を進め、
天候による入場者数への影響を補うとともに、物販を中心に売上を伸ばし、前年を上回る収入を確保**

需要に応じた価格最適化による収益拡大と顧客満足度向上

● 変動価格制による入場者の分散化

12月

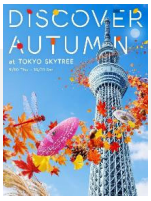
日	月	火	水	木	金	土
13 ¥4,000	14 ¥3,400	15 ¥3,400	16 ¥3,200	17 ¥3,400	18 ¥3,400	19 ¥4,000
20 ¥4,000	21 ¥3,400	22 ¥3,400	23 ¥3,800	24 ¥3,800	25 ¥4,000	26 ¥4,400
27 ¥4,400	28 ¥4,400	29 ¥4,400	30 ¥4,400	31 ¥4,400		

コンテンツ強化による入場者拡大と収益向上

● コラボイベント・季節のイベントの実施



©nagano ©ナガノ / 2026「映画ちいかわ」製作委員会 ©TOKYO-SKYTREE



©TOKYO-SKYTREE

● 「LOOK UP CAFE TOKYO SKYTREE」のOPENによる顧客体験の向上



©TOKYO-SKYTREE



©TOKYO-SKYTREE

All rights reserved. Copyright © TOBU RAILWAY CO.,LTD.

続いて14ページは、東京スカイツリーでございます。

今年度上期は、天候の影響を大きく受け、入場者数は少々苦戦いたしました。しかしながら、東京スカイツリーの持つ高い集客力を基盤とし、４月に導入しました変動価格制により、需要に応じた価格最適化による収益拡大を図れたこと、またキャラクターとのコラボイベントなどコンテンツ強化を図り、入場者の拡大や物販などの収益向上策を展開いたしました。それらの結果、東京スカイツリーとして前年を上回る収入を確保しております。

展望と併せて、イベントや物販も楽しんでいただき、東京スカイツリーの集客力と収益力をさらに向上させてまいります。



All rights reserved. Copyright © TOBU RAILWAY CO.,LTD.

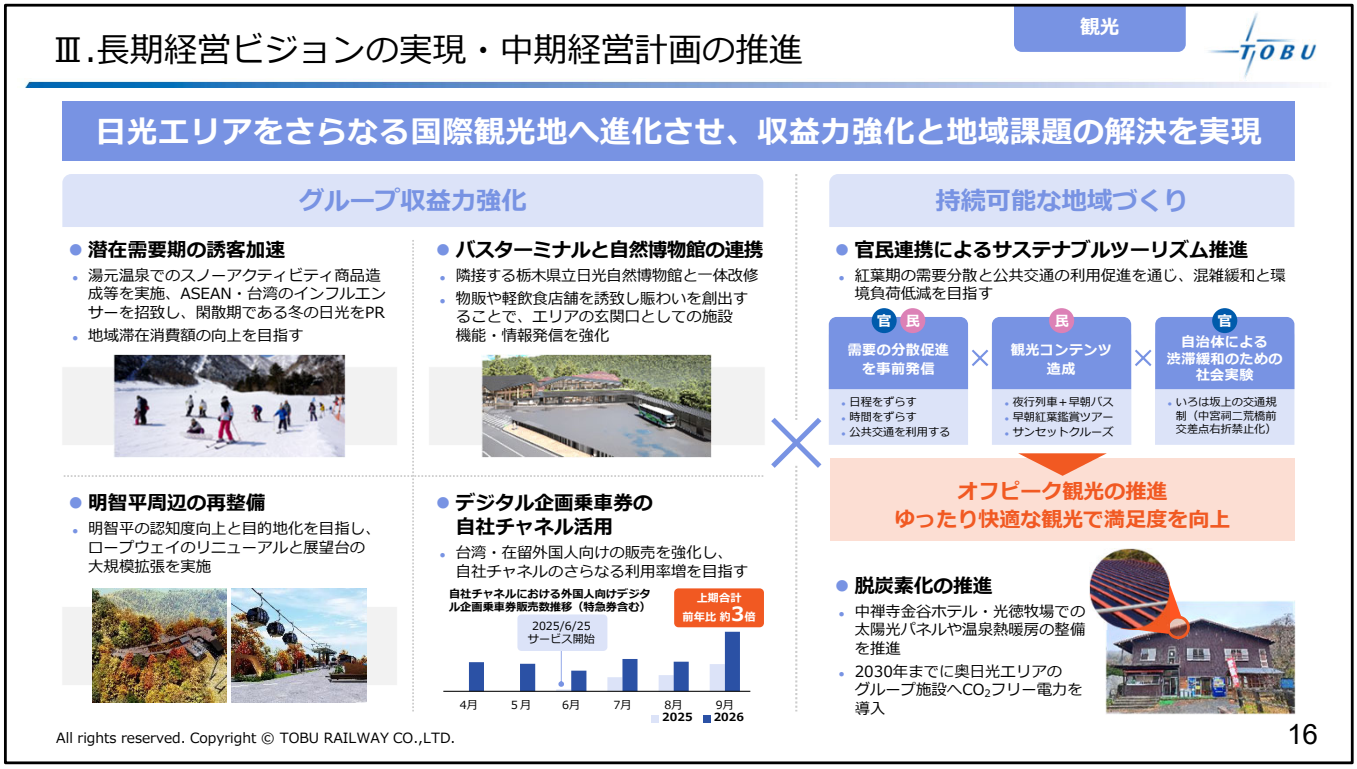
15

15ページは、当社沿線の一大観光地であります日光エリアについてです。
東武グループは、持続可能な地域づくりを進めながら、エリア収益200億円を目指しております。

日光には、首都圏屈指の紅葉のみならず、世界遺産や歴史文化、豊かな自然、アクティビティ、温泉など、四季を通じてお楽しみいただける観光資源が集積しております。

東武グループはこの地で、鉄道やバスをはじめ、ホテル、ロープウェイ、遊覧船、温泉の源泉にいたるまで、幅広い事業を営んでおります。浅草・東京スカイツリーから日光までを約2時間で結んでいることも大きな強みでございます。

日光市の観光客数は2年連続で1,000万人を超えた一方、宿泊者数は約310万人、外国人宿泊者数は18万人です。特に、右下の宿泊者数をご覧いただきますと、冬をはじめとした潜在需要期を盛り上げ、年間を通じて訪れる環境を作ることに、東武グループと地域社会双方のさらなる成長のカギがあると考えております。
宿泊旅行先としての需要を高め滞在時間を伸ばすことや、インバウンド需要のさらなる取り込みに取り組んでまいります。



16ページにて、日光をさらに成長させていくための、具体的な取り組みについてご説明いたします。

季節波動の面では、冬をはじめとする潜在需要期をより活性化させてまいります。奥日光の湯元温泉では、スノーアクティビティ商品の造成を進め、冬の日光の魅力を発信しています。

受入環境の面では、いろは坂を上がった中禅寺温泉バスターミナルに賑わいを創出、エリアの玄関口としての機能を高めてまいります。奥日光の入り口となる明智平においても、ロープウェイのリニューアルと、その終点の展望台の大規模改修を実施し、認知度の向上と目的地化に向けた再整備を進めてまいります。

Ⅲ.長期経営ビジョンの実現・中期経営計画の推進

観光収益拡大に向けた基盤構築を進め、さらなる利益成長へ

アップセル・クロスセル推進策を展開

- 2026年10月、栃木県でオーストラリア市場向けゴルフツーリズムFAMツアーを開催
- 台湾などターゲット市場への高付加価値商品を造成し、交通・ホテルとの連携で収益を拡大



両毛エリアにおけるインバウンド向け商品拡充

- あしかがフラワーパークへの誘客を強化し、関心の高い台湾市場をターゲットに商品を造成
- 鉄道と観光を組み合わせ、両毛エリアへの誘客と沿線収益を拡大



クルーズツーリズムの誘致を通じた地域消費拡大

- 東京・横浜港発着クルーズの富裕層に、歴史・文化・自然を有する日光・鬼怒川エリアを訴求
- 新規顧客の獲得により、高単価消費を創出

（国土交通省補助事業に採択）



オープンイノベーションの推進

- 外部企業との事業共創プログラム「TOBU Open Innovation Program」を推進
- ゆにガーデン（北海道由仁町）で三輪モビリティ「ストリーモ」を試験導入し、新たな観光体験を創出



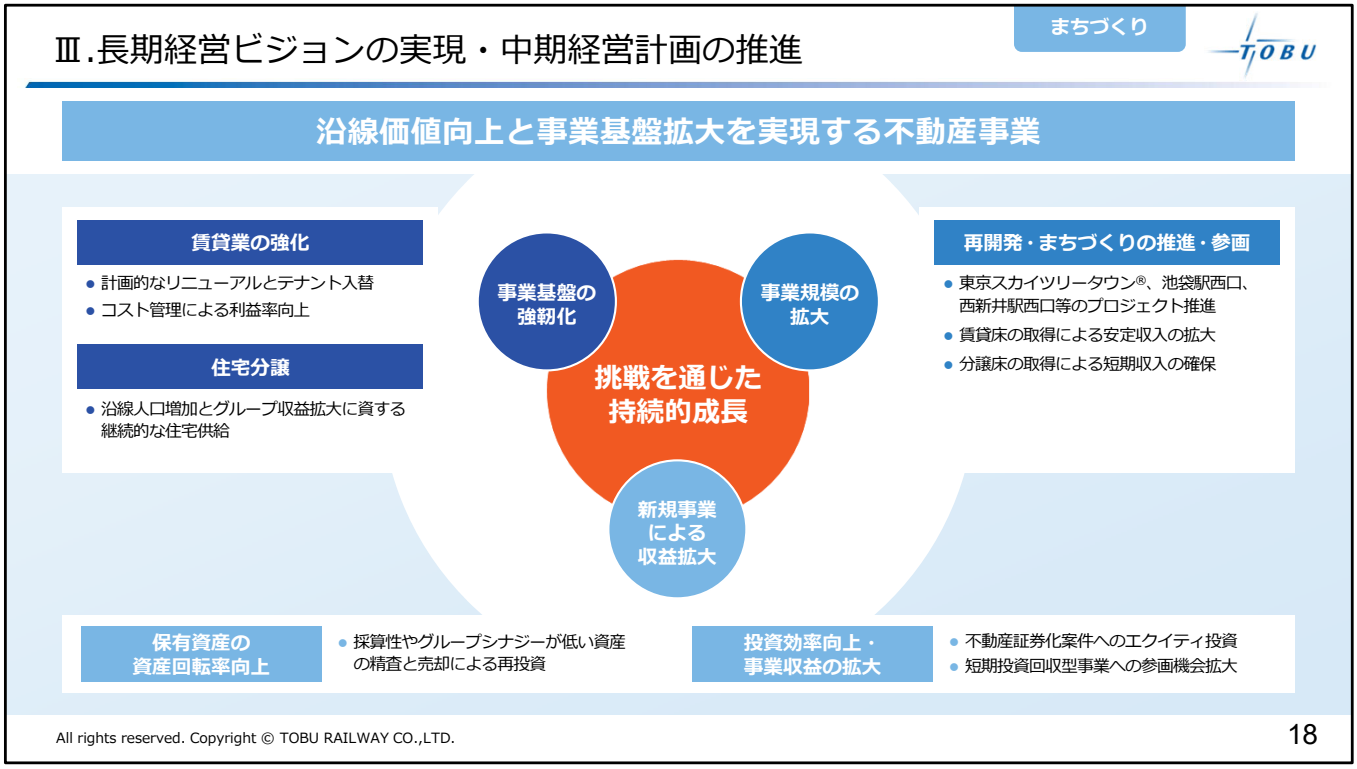
沿線地域の交流機会を創出する子ども体験プログラム

- 群馬県太田市、埼玉県小川町等で、沿線地域の歴史・文化・自然体験イベントを実施
- 2026年「第10回 ジャパン・ツーリズム・アワード」にて「審査委員特別賞」を受賞



All rights reserved. Copyright © TOBU RAILWAY CO.,LTD.

次に17ページでございますが、
東武グループが持つ観光資源をつなぎ、
より高い付加価値を生み出すことで、観光収益をさらに拡大していく取り組みです。
ゴルフツーリズムやクルーズツーリズムなど、その取り組みは新たな領域にも広がっています。

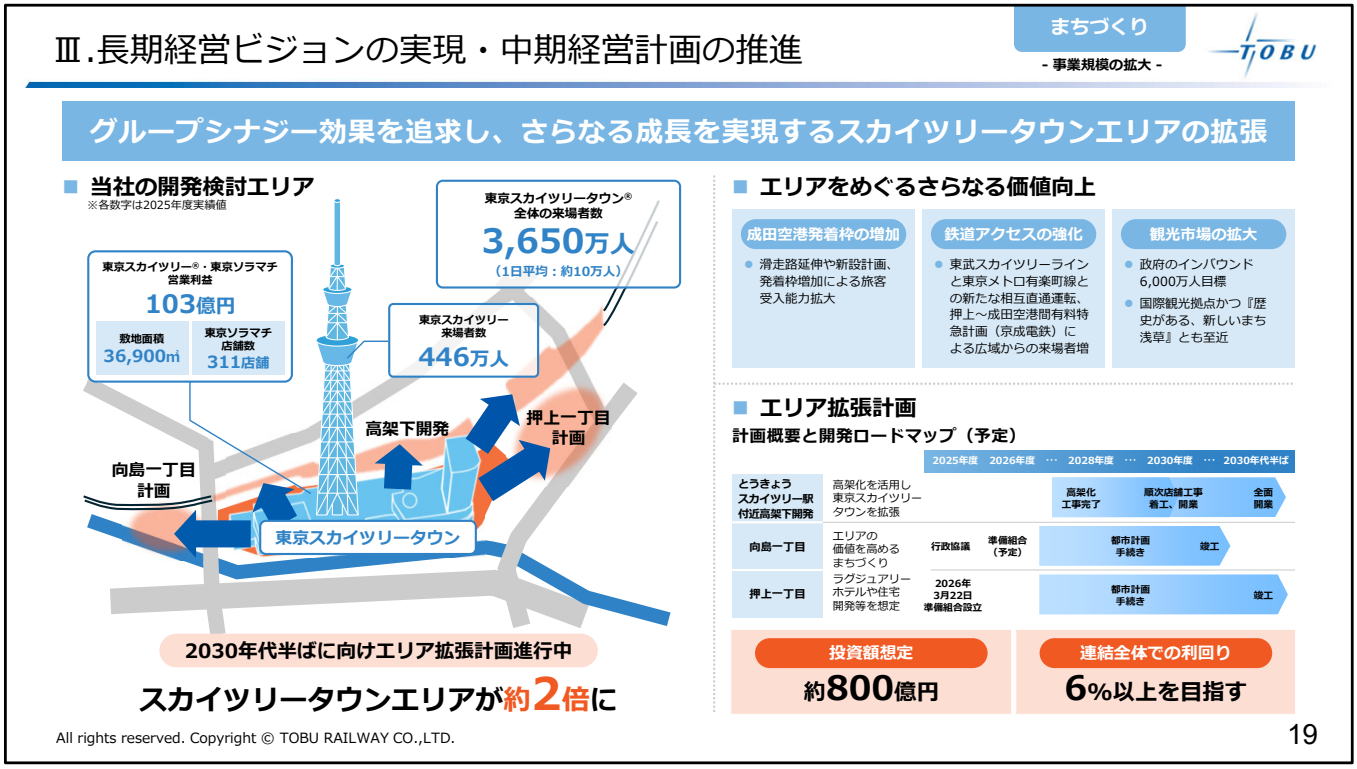


18ページからは、まちづくり・不動産事業についてです。
不動産事業では、沿線価値の向上と事業基盤の拡大を実現してまいります。

まず、左上の事業基盤の強靭化においては、駅ナカ・駅チカをはじめとした優位な立地を活かした賃貸業において、計画的なリニューアルやテナント入れ替えによる磨き上げを続け、利益成長を牽引いたします。沿線人口やグループ収益に資する住宅分譲も大事な取り組みと位置付けております。

右上の事業規模の拡大面では、東京スカイツリータウンや池袋駅西口のプロジェクトなど、再開発・まちづくりの推進と参画を進めてまいります。

さらに、下にある新規事業による収益拡大にも取り組み、採算性やグループとのシナジーを見極め、資産売却と再投資を図るとともに、エクイティ投資、短期投資回収型事業といった、当社にとっての領域拡大にも挑戦してまいります。



19ページは、事業規模の拡大である、スカイツリータウンの拡張計画についてです。

スカイツリータウンに位置する東京スカイツリーと東京ソラマチは、合わせて年間100億円を超える営業利益と、3,000万人以上の集客力を誇ります。

さらに右上にありますように、空港や鉄道アクセスの強化をはじめとした、今後の観光市場の拡大と合わせ、さらなる価値向上を見込めるエリアと考えております。

左の図にもあります通り、高架化を活用した北方向と、向島一丁目や押上一丁目エリアといった東西方向の3方向へとエリアを拡張し、グループシナジー効果も取り込みながら成長を果たすべくプロジェクトを推進中でございます。

池袋駅西口再開発プロジェクトの推進により 当社主要拠点の池袋に加え、東上線全体をバリューアップ

■ 池袋駅西口再開発が目指す姿

交通・商業・文化が集積する池袋の都市的特性と 当社グループの経営資源を活かし、西口の新たな価値を創出

池袋のポテンシャル

- **世界有数の交通結節点**
  - 4社8路線が乗り入れ
  - 1日約230万人が利用するターミナル駅
- **多様な都市機能の集積**
  - 商業・芸術・文化・教育・エンタメ等の各機能が駅周辺に集積

×

池袋駅西口再開発事業の整備内容

- **駅前交通機能のさらなる強化**
- **連続的な歩行者空間の整備**
- **業務・商業・宿泊施設・住宅等の多様な用途の整備**
  - 国内外からの新たな来街者を創出

再開発により見込める効果

- **東武ならではの「駅とまちが有機的に結びつくまちづくり」の実現**
- **百貨店・ビル管理・熱供給事業等のグループシナジーの拡大**
- **東武グループの収益基盤強化と沿線価値向上**
- **池袋の都市間競争力の強化と東上線沿線全体への波及効果の創出**

■ 計画概要



当社単独施行街区

- アトリウム空間の整備
- 東上線上空広場整備
- 池袋駅の3面4線化


▲当社単独施行街区イメージ

池袋エリア内の回遊性向上と 沿線内外からの人流の創出を実現

■ 完成までのロードマップ



2027年度末の事業認可に向けて検討を深度化

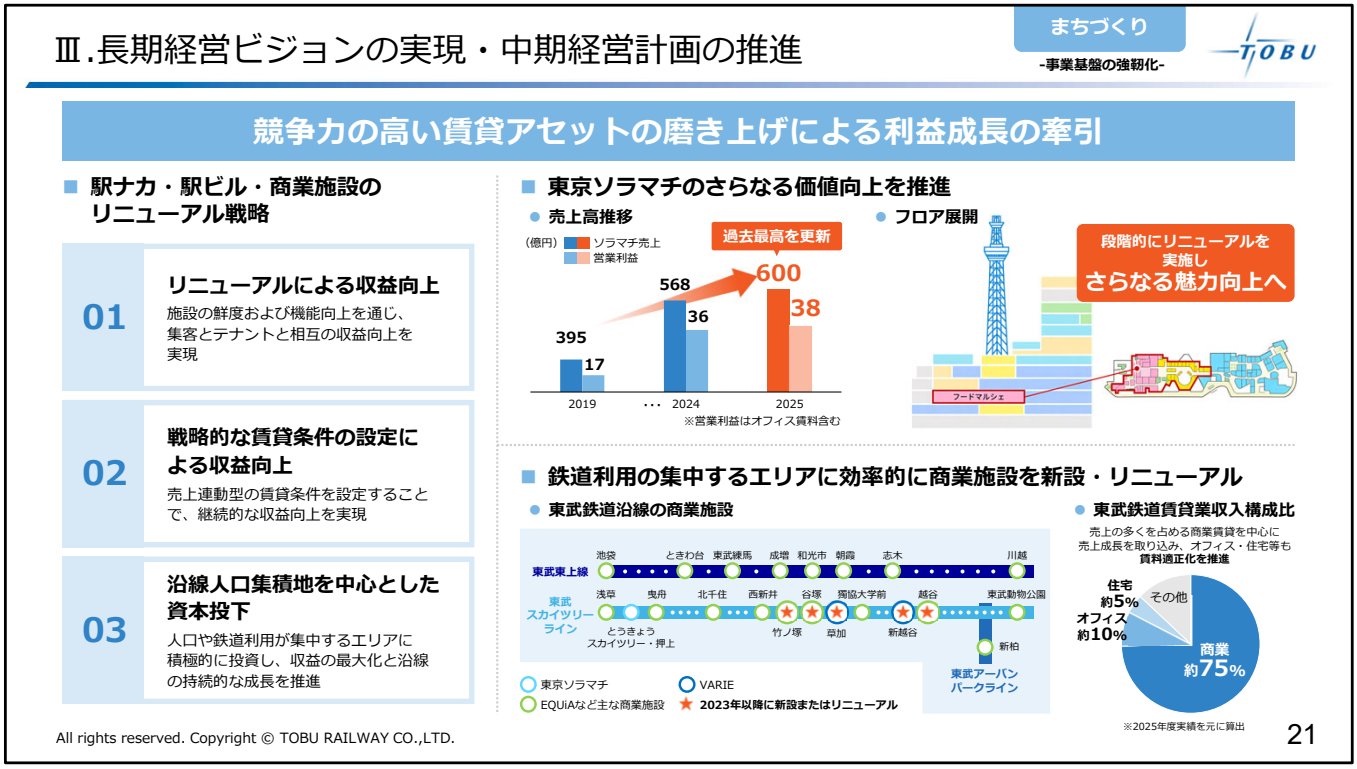
All rights reserved. Copyright © TOBU RAILWAY CO.,LTD.

20ページも事業規模拡大の一つであります池袋駅西口再開発でございます。

池袋は、当社にとって東上線の起点でございまして、百貨店をはじめとしたグループの事業も集積する大変重要な拠点と位置付けております。

池袋駅は、1日約230万人が利用するターミナル駅でございまして、駅の周辺には多様な都市機能が集積しております。
この都市としてのポテンシャルと、東武グループの経営資源とを組み合わせ、再開発による効果を最大化させることで、池袋の地に新たな価値をつくってまいります。

前回もお示しいたしましたように、事業認可に向けた検討を深度化させており、東上線全体のバリューアップに寄与するこのプロジェクトを着実に進めてまいります。



21ページでは、事業基盤の強靭化についてです。

当社は、駅ナカや駅ビル、商業施設を数多く保有しております。これらの施設については、計画的にリニューアルや鮮度向上を図り、継続的に価値を高めていくことが重要と考えております。

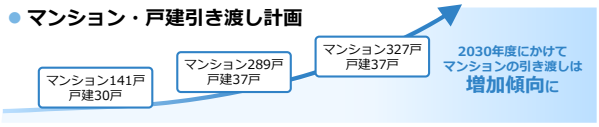
具体的には、東京ソラマチや鉄道利用が集中するエリアへ重点的に投資するとともに、売上連動型を含む賃貸条件を活用して、テナントの成長を当社の収益にも取り込んでまいります。

こうした競争力の高い資産を磨き上げることで、キャッシュ・フロー創出力を強化してまいります。

分譲・投資を通じた、沿線基盤の強化と収益源多様化

沿線基盤の強化

- **住宅分譲**
  - 定住化の促進と沿線人口の増加
  - 鉄道をはじめとするグループ収益の拡大
- **マンション・戸建引き渡し計画**



収益源多様化への挑戦

- **短期投資回収型事業**

開発・運営・売却を通じた利益の獲得と事業領域の拡大
  - 一棟建て賃貸マンションの建設と売却（墨田区）
  - 物流倉庫（白岡市（埼玉県））や商業施設（大阪市）を開発中

- **エクイティ投資**

賃貸不動産への共同出資による投資機会の拡大と資本効率の向上
  - 商業施設（墨田区）への出資



外観イメージCG（物流倉庫）
※今後変更となる可能性がございます

成長投資戦略

投資・開発・売却を繰り返しながら
ノウハウを蓄積し、持続的な利益成長を実現

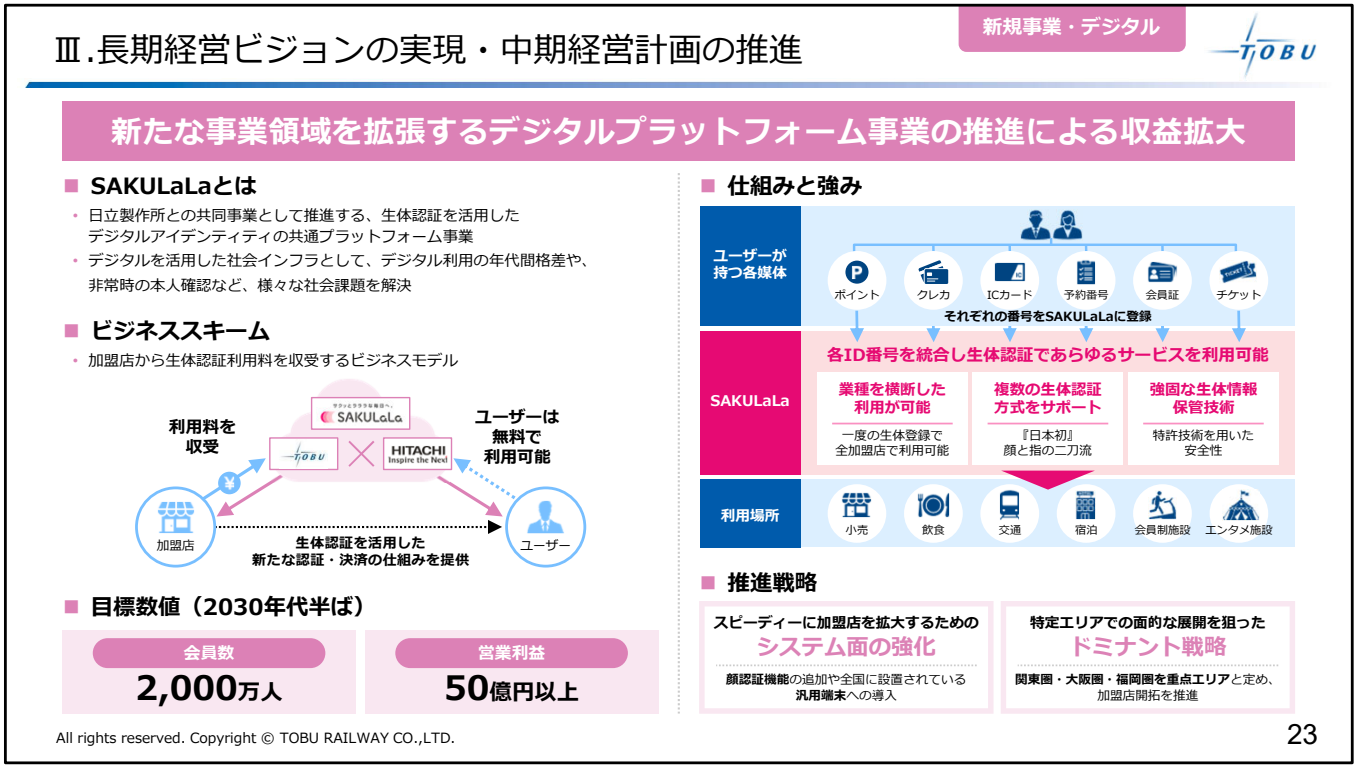


All rights reserved. Copyright © TOBU RAILWAY CO.,LTD.

22ページは、住宅分譲と、新しい不動産投資への取り組みです。

事業基盤の強靭化と位置付ける、住宅分譲については、沿線への定住を促し、鉄道をはじめとするグループ全体の収益基盤を強化する役割を果たしております。

特に、新規事業による収益拡大の面では、収益源多様化への挑戦として、墨田区の一棟建て賃貸マンションに加え、埼玉県白岡市では物流倉庫、大阪では商業施設の開発を進めております。また、賃貸物件のエクイティ投資にも取り組んでまいります。
こうした事業では、仕入れ、開発、リーシング、価値向上、そして売却という一連のサイクルを着実に回してまいります。



23ページからは、新規事業とデジタル分野についてです。

まずは、SAKULaLaでございます。

SAKULaLaは、当社と日立製作所が共同で進めている、生体認証を活用したデジタルアイデンティティの共通プラットフォーム事業です。
お客さまが持つポイント、クレジットカードをはじめとしたさまざまなIDをSAKULaLaに登録します。これにより、一度生体情報を登録すれば、小売、飲食、交通など業種をまたいで、生体認証のみでサービスを利用できます。

その推進戦略における、システム面の強化とドミナント戦略について、次ページでご説明をいたします。



24ページは、プラットフォームとして全国展開を進めるうえでは、導入コストをできるだけ小さくすることが重要と考えております。

鉄道改札については、既存の改札機に顔認証カメラを追加する方式を採用し、複数のメーカーの改札機に、共通の仕様で設置できる仕組みを構築しており、導入コストと工期を抑えることができます。
それではここで動画でご覧いただきたいと思います。

～　動画　～

いかがでしたでしょうか。
ご覧いただきましたように、改札の通過スピードは申し分なく、ICカードを出しづらい状況の時でも、顔認証でスピーディーに通過できることは、お客様にとっても高い利便性を感じていただけると考えております。

また、決済についても、新しい専用端末を設置するのではなく、既存の汎用決済端末に機能を追加することで、顔認証決済に対応していくものでございます。

そして、当社最大のターミナルである池袋を、面的な展開のモデルケースとして進めてまいりたいと考えております。
鉄道の改札、TJライナーの専用改札、東武百貨店での決済など、日常のさまざまな場面で利用できる環境を整えてまいります。
池袋エリアで得た実績をグループ内外へ広げ、将来的には、沿線だけでなく全国へ展開できる仕組みに育ててまいりたいと思っております。

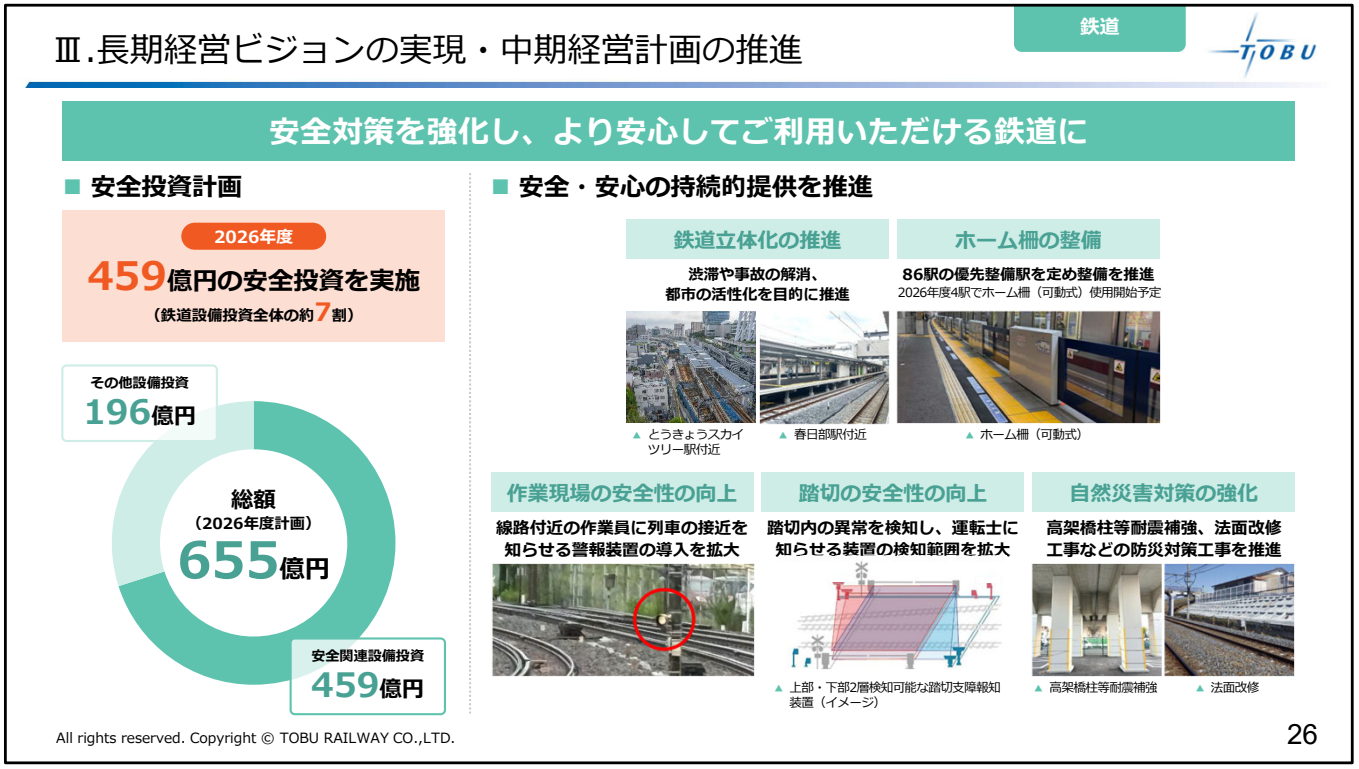


25ページでは、デジタルマーケティングの強化と、新たな事業領域への取り組みについてお話をいたします。

TOBU POINTをお客さまとの重要な接点とし、グループ内での利用をさらに広げてまいります。
具体的には、昨年度刷新した東武カード、鉄道定期券、SAKULaLaなど、グループの顧客基盤の連携を強化するとともに、移動、属性、購買などのデータを適切に活用し、お客さまのニーズに応じたサービスの提供や利用頻度の向上につなげてまいります。グループ各社の担当者が参加するワーキングも推進しており、グループ横断的にデータを利活用し、収益機会を広げてまいります。

また、右の図ですが、新たな事業領域への挑戦として、SkyDriveへの出資を行い、「空飛ぶクルマ」の社会実装に向けた連携を進めております。

こうしたデジタル基盤やお客さまとの接点を、既存事業だけでなく新しい事業にも広げ、将来の収益の柱に育てていきたいと考えております。



26ページからは、鉄道事業についてです。

安全・安心の確保は、すべてに優先する取り組みです。
2026年度は、鉄道設備投資総額のうちの７割にあたります459億円を安全関連の設備投資に充てます。
とうきょうスカイツリー駅付近や春日部駅付近での鉄道の立体化を進めており、踏切による交通渋滞や事故の解消を図ってまいります。ホーム柵についても、順次整備を進めております。

また、冒頭で申し上げました新鹿沼の事故を踏まえ、人による判断を補助する仕組みとして、列車の接近を知らせる警報装置の導入を拡大し、作業現場の安全性を向上させてまいります。

鉄道

快適性向上・省人化・デジタル化を推進し、持続可能な鉄道サービスを実現

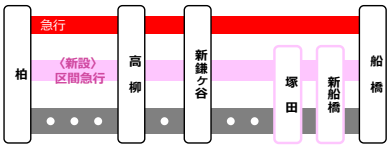
快適性・利便性向上

- **新たな特急車両の設計開始**
  - 2029年度の導入に向け、100系スペーシア、200系りょうもうの役割を担う新たな特急車両の設計を開始



▲ 新型特急車両（イメージ）

- **東武アーバンパークラインの快適性向上**
  - 朝ラッシュ時の柏～船橋間に新種別「区間急行」を設定
  - ピーク時間帯の本数増とあわせて混雑の平準化・緩和を推進



環境負荷低減・省人化による持続性向上

- **東上線新型車両の営業運転開始**
  - 2026年9月より90000系の営業運転を開始
  - 9000系比40%超の省エネ性能を実現し、環境負荷低減と運行コスト抑制を実現
  - デザイン性によりグッドデザイン・ベスト100受賞



▲ 新型車両90000系

- **東武アーバンパークラインのワンマン運転導入**
  - 2027年3月より柏～船橋間でワンマン運転を導入
  - **当社営業キロのうち、65%でワンマン運転を実施**

デジタル化・運営効率化

- **持続可能な乗車券システム構築**
  - 2027年3月より、磁気乗車券をQR乗車券に移行
  - ICカードによるシームレス利用を主体としつつ、企画乗車券・普通乗車券のQR化を推進
  - 利便性向上と持続可能な鉄道運行サービスを実現



▲ 普通乗車券（イメージ）　▲ デジタル企画乗車券（イメージ）



▲ 自動改札機（イメージ）

快適性と利便性の向上・環境負荷低減・人材不足対応を推進、早期の運賃改定を目指す

All rights reserved. Copyright © TOBU RAILWAY CO.,LTD.

27ページのとおり、持続可能な鉄道サービスの実現にも取り組んでまいります。

快適性・利便性の向上としては、新たな特急車両の設計を開始いたしました。
また、アーバンパークラインではダイヤ改正を行い、混雑の平準化と緩和を推進いたします。

持続性向上としては、環境負荷の低減と運行コスト抑制に資する新型車両90000系の営業運転開始やワンマン運転区間の拡大を図ってまいります。来年3月には65%の区間でワンマン運転を実施することになります。

デジタル化・運営効率化としては、磁気乗車券をQR乗車券へ移行することで、改札機・券売機の維持管理を適正化、磁気券の製造・リサイクルによる環境負荷の低減などにより、持続可能な鉄道運行サービスに寄与いたします。

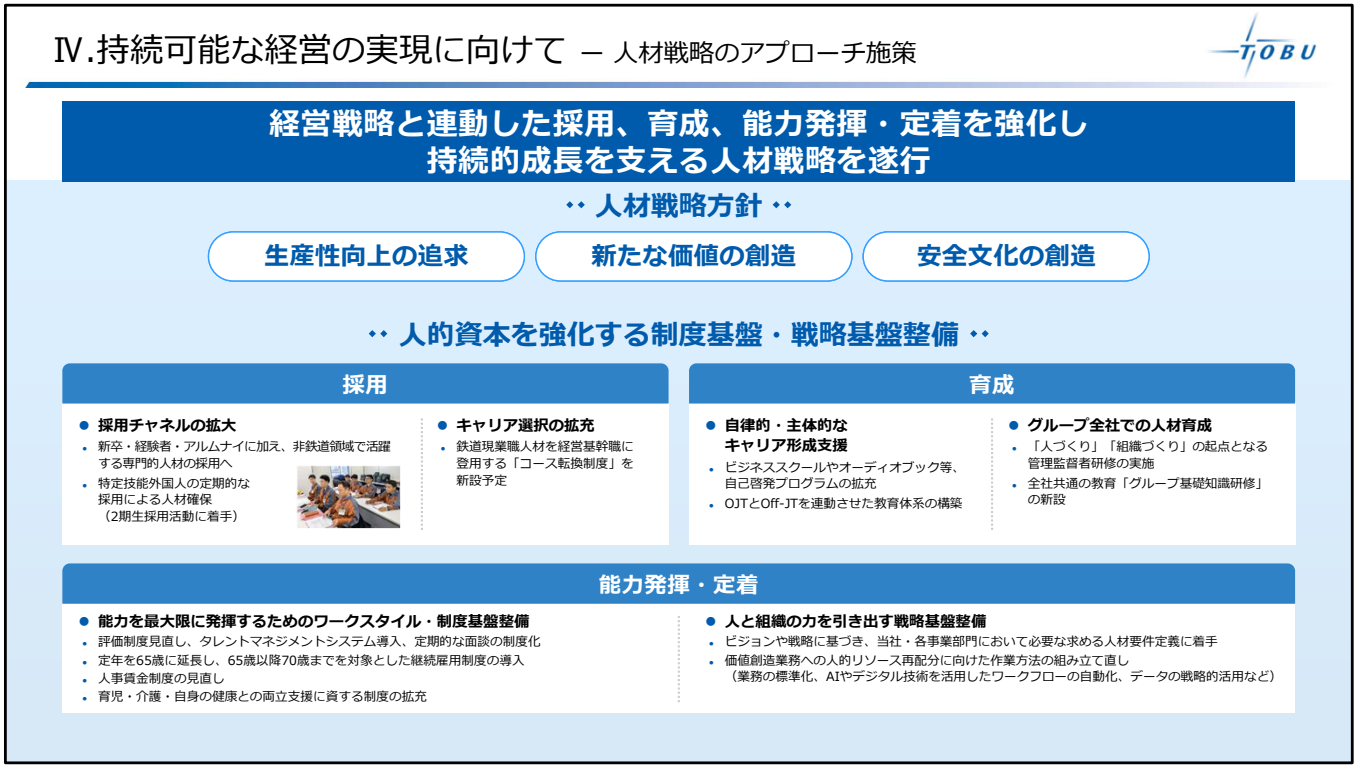
このような、快適性と利便性の向上、環境負荷低減、将来の人材不足対応を推進するために必要な費用を賄うためにも、運賃改定の早期実現を目指してまいります。

Ⅳ.持続可能な経営の実現に向けて

All rights reserved. Copyright © TOBU RAILWAY CO.,LTD.

ここまで、長期経営ビジョンの実現に向けた取り組みについて説明してまいりました。
これらの施策を着実に進め、中長期的な成長につなげていくためには、それを支える経営基盤を強くしていかなければなりません。

28ページからは、持続可能な経営の実現に向けた取り組みとして、人材戦略、ガバナンス、そして環境への対応についてお話をいたします。



29ページですが、人材戦略についてです。

当社グループの持続的な成長を支えるのは、やはり「人」です。
経営戦略と連動した採用・育成・定着を強化し、持続的成長を支える人材戦略を遂行しております。

人的資本を強化するための制度基盤・戦略基盤の整備を進めており、
採用については、採用チャネルの拡大を図る中で、この9月には特定技能外国人の鉄道分野における1期生を採用し、続いて2期生の採用にも着手しております。

能力発揮・定着面では、新しい評価制度やタレントマネジメントシステムを導入し、社員一人一人の能力・資質・意向・志向を継続的に把握してまいります。これらを基盤に、能力を最大限に発揮し、新たな価値を創造することで、長期経営ビジョンの実現につなげる人づくりを推進してまいります。

Ⅳ.持続可能な経営の実現に向けて – ガバナンス強化・環境負荷低減

独立性と実効性を両立する コーポレート・ガバナンス体制の強化

社外取締役過半数化による監督機能の強化

- 2026年6月より社外取締役の比率を60%に引き上げ
- 事業運営に精通する社内取締役と、経営の公正性かつ透明性確保に資する独立社外取締役により、企業価値向上を図る
- 「指名・報酬委員会」および「ガバナンス委員会」の両議長を社外取締役が務め、モニタリング機能の強化・充実、公正性を確保

■ **取締役会の構成推移**

区分	2017	2018	2019	2020	2022	2023	2026
社内	14名	7名	8名	8名	7名	5名	4名
社外	2名	2名	2名	4名	4名	4名	6名
社外取締役の割合	12.5%	22.2%	20.0%	33.3%	36.3%	44.4%	60.0%
うち女性	1名	0名	0名	1名	1名	1名	2名

※ 株主総会終結時の人数

CO_2排出量削減による持続可能な社会構築と企業の成長を両立

CO_2排出量目標を早期に達成見込み

- 省エネ車両への置換に加え、2026年4月より東武線全線の電車・駅施設の電力を、再生可能エネルギー由来の電力に置き換え、電車運行に関わるCO_2排出量を実質ゼロに
- グループ目標である2030年度のCO_2排出量目標（2022年度比30%削減）を早期に達成する見込み



▲東武アーバンパークラインの省エネ化に貢献する80000系車両



▲グループ施設から生じた廃食油由来のバイオディーゼル燃料混合軽油で運行する東武バス日光の路線バス

All rights reserved. Copyright © TOBU RAILWAY CO.,LTD.

最後に、30ページですが、ガバナンスと環境への取り組みについてです。

ガバナンスについては、2026年6月の株主総会から、取締役10名のうち6名を社外取締役とし、その構成比率を60%まで引き上げました。これによりまして、経営の公平性や透明性をより高めてまいります。社外取締役には引き続き、指名・報酬委員会や、コーポレート・ガバナンスの実効性向上を図るガバナンス委員会の議長を務めていただき、モニタリング機能の強化・充実、公正性を確保してまいります。

環境面では、省エネ車両への置き換えに加えて、2026年4月から、東武線全線の電車と駅施設で使用する電力を、再生可能エネルギー由来の電力へ切り替えました。これにより、電車の運行に関わるCO2排出量を実質ゼロとしております。こうした取り組みにより、2030年度のグループCO2排出量削減目標についても、早期の達成を見込み、持続可能な社会構築と企業の成長を両立してまいります。

説明は以上となります。どうぞよろしくお願いいたします。

appendix

All rights reserved. Copyright © TOBU RAILWAY CO.,LTD.

2027年3月期 2Q(中間期)実績 ー 連結子会社・持分法適用会社数

連結子会社数	2026.3	増加	減少	2026.9	備考
運輸事業	27	-	3	24	2026.4　東武インターテック㈱、東武エンジニアリング㈱、東武ステーションサービス㈱ 東武鉄道㈱への吸収合併による減
レジャー事業	14	-	-	14	
不動産事業	3	-	-	3	
流通事業	8	-	-	8	
その他事業	16	-	-	16	
合計	68	-	3	65	

持分法適用会社数	2026.3	増加	減少	2026.9	備考
運輸事業	1	-	-	1	
レジャー事業	2	-	-	2	
不動産事業	-	-	-	-	
流通事業	-	-	-	-	
その他事業	-	-	-	-	
合計	3	-	-	3	

All rights reserved. Copyright © TOBU RAILWAY CO.,LTD.

2027年3月期 2Q(中間期)実績 ー 連結貸借対照表

単位：百万円	2026/3期末	2027/3期 2Q末	増減	備考
流動資産	194,787	208,469	13,681	
固定資産	1,668,775	1,676,672	7,896	
資産合計	1,863,562	1,885,141	21,578	
流動負債	475,985	472,740	▲3,245	
固定負債	765,350	758,517	▲6,832	
負債合計	1,241,335	1,231,257	▲10,077	
純資産合計	622,227	653,883	31,656	利益剰余金＋23,909
負債純資産合計	1,863,562	1,885,141	21,578	
自己資本比率	33.0%	34.3%	1.3P	
有利子負債残高	789,673	795,747	6,073	

All rights reserved. Copyright © TOBU RAILWAY CO.,LTD.

2027年3月期 2Q(中間期)実績 ー 連結キャッシュ・フロー計算書

単位：百万円	2026/3期 2Q実績	2027/3期 2Q実績	増減	備考
営業活動によるキャッシュ・フロー	44,879	32,290	▲12,588	
投資活動によるキャッシュ・フロー	▲38,252	▲29,839	8,412	固定資産の売却による収入＋4,264
財務活動によるキャッシュ・フロー	▲7,508	▲1,748	5,759	
現金及び現金同等物の増減額	▲916	716	1,632	
現金及び現金同等物の期末残高	34,019	44,923	10,903	

All rights reserved. Copyright © TOBU RAILWAY CO.,LTD.

2027年3月期 2Q(中間期)実績 ー 運輸事業

単位：百万円	2026/3期 2Q実績	2027/3期 2Q実績	増減	備考	2027/3期 2Q計画	増減
営業収益	109,402	111,995	2,593		110,900	1,095
鉄道	82,078	83,724	1,646		82,800	924
その他	27,323	28,270	946	バス・タクシー業＋964 貨物運送業　▲14	28,100	170
営業利益	15,997	15,789	▲208		13,700	2,089
鉄道	13,773	13,763	▲9		11,600	2,163
その他	2,224	2,025	▲198	バス・タクシー業▲262 貨物運送業　＋63	2,100	▲75

東武鉄道 旅客人員（単位：百万人）	2026/3期 2Q実績	2027/3期 2Q実績	増減
定期	279	284	1.7%
定期外	166	171	2.9%
（特急）	3	3	1.6%
合計	445	455	2.1%

東武鉄道 旅客収入（単位：百万円）	2026/3期 2Q実績	2027/3期 2Q実績	増減
定期	31,505	31,903	1.3%
定期外	43,230	44,330	2.5%
（特急）	3,655	3,772	3.2%
合計	74,736	76,234	2.0%

※定期外旅客収入は、特急料金、座席指定料金を含む。

All rights reserved. Copyright © TOBU RAILWAY CO.,LTD.

2027年3月期 2Q(中間期)実績 ー レジャー事業

単位：百万円	2026/3期 2Q実績	2027/3期 2Q実績	増減	備考	2027/3期 2Q計画	増減
営業収益	83,628	84,054	425		83,200	854
旅行	51,803	51,217	▲586		50,000	1,217
ホテル	17,399	18,172	773		17,900	272
スカイツリー	8,688	8,845	157		9,200	▲355
その他	5,737	5,819	81	遊園地・観光業 ＋29 スポーツ業 ＋63	6,100	▲281
営業利益	7,986	7,476	▲509		7,800	▲324
旅行	▲57	▲291	▲234		▲500	209
ホテル	3,469	3,409	▲59		3,300	109
スカイツリー	3,850	3,747	▲103		4,100	▲353
その他	723	610	▲112	遊園地・観光業 ▲167 スポーツ業 ＋54	900	▲290

入場者数（単位：万人）	2026/3期 2Q実績	2027/3期 2Q実績	増減
スカイツリー	239	201	▲38

主なホテル 稼働率	2026/3期 2Q実績	2027/3期 2Q実績	増減
CY銀座	86.2%	82.6%	▲3.6P
AC銀座	83.7%	79.1%	▲4.6P
錦糸町	90.0%	90.7%	0.7P
成田	88.3%	88.0%	▲0.3P

主なホテル 外国人比率	2026/3期 2Q実績	2027/3期 2Q実績
CY銀座	83.8%	87.1%
AC銀座	81.6%	84.3%
錦糸町	84.9%	80.3%
成田	69.6%	66.0%

All rights reserved. Copyright © TOBU RAILWAY CO.,LTD.

2027年3月期 2Q(中間期)実績 ー 不動産事業

単位：百万円	2026/3期 2Q実績	2027/3期 2Q実績	増減	備考	2027/3期 2Q計画	増減
営業収益	26,635	27,335	699		27,700	▲365
賃貸	17,475	18,703	1,227		18,700	3
タウン	6,766	6,987	220		6,700	287
分譲	2,393	1,644	▲748		2,300	▲656
営業利益	7,259	7,681	422		7,500	181
賃貸	5,057	5,405	347		5,300	105
タウン	2,097	2,174	77		2,100	74
分譲	104	101	▲2		100	1

来場者数 (単位：万人)	2026/3期 2Q実績	2027/3期 2Q実績	増減
スカイツリータウン	1,810	1,799	▲11

分譲販売戸数	2026/3期 2Q実績	2027/3期 2Q実績	増減
戸建住宅	37戸	31戸	▲6戸
マンション	43戸	55戸	12戸
持分換算後分譲販売戸数			
戸建住宅	18戸	13戸	▲5戸
マンション	17戸	24戸	7戸

All rights reserved. Copyright © TOBU RAILWAY CO.,LTD.

37

2027年3月期 2Q(中間期)実績 ー 流通事業

単位：百万円	2026/3期 2Q実績	2027/3期 2Q実績	増減	備考	2027/3期 2Q計画	増減
営業収益	86,629	87,556	926		87,100	456
百貨店	30,836	31,811	975		30,400	1,411
ストア	37,425	36,259	▲1,165		36,400	▲141
その他	18,367	19,485	1,117		20,300	▲815
営業利益	3,008	3,942	933		3,600	342
百貨店	2,490	3,129	638		2,500	629
ストア	508	584	76		600	▲16
その他	9	228	218		500	▲272

主要百貨店 売上増減率	2026/3期 2Q実績	2027/3期 2Q実績
池袋	10.6%	4.1%
船橋	0.7%	1.2%
宇都宮	0.3%	▲0.1%

All rights reserved. Copyright © TOBU RAILWAY CO.,LTD.

2027年3月期 2Q(中間期)実績 ー その他事業

単位：百万円	2026/3期 2Q実績	2027/3期 2Q実績	増減	備考	2027/3期 2Q計画	増減
営業収益	38,230	41,582	3,352		43,600	▲2,018
営業利益	2,112	2,404	291		3,200	▲796

All rights reserved. Copyright © TOBU RAILWAY CO.,LTD.

39

2027年3月期 2Q(中間期)実績 ー セグメント別参考数値

単位：百万円	EBITDA			減価償却費			設備投資		
	2026/3期 2Q実績	2027/3期 2Q実績	増減	2026/3期 2Q実績	2027/3期 2Q実績	増減	2026/3期 2Q実績	2027/3期 2Q実績	増減
運輸事業	31,785	32,791	1,005	15,787	17,001	1,214	7,780	12,066	4,286
レジャー事業	11,226	10,903	▲322	3,240	3,427	186	10,193	3,724	▲6,469
不動産事業	12,596	13,146	549	5,337	5,464	126	3,000	1,205	▲1,795
流通事業	4,673	5,399	725	1,664	1,456	▲207	3,019	1,149	▲1,870
その他事業	3,016	3,188	171	904	784	▲120	481	643	162
全体	62,519	64,267	1,747	26,935	28,134	1,199	24,476	18,788	▲5,688

All rights reserved. Copyright © TOBU RAILWAY CO.,LTD.

40

2027年3月期 2Q(中間期)実績 ー 四半期別実績

	単位：百万円	2027/3期 1Q実績	2027/3期 2Q実績	2027/3期 2Q累計実績
運輸事業	営業収益	56,117	55,878	111,995
	営業利益	10,262	5,527	15,789
レジャー事業	営業収益	38,648	45,406	84,054
	営業利益	3,831	3,644	7,476
不動産事業	営業収益	13,872	13,463	27,335
	営業利益	3,871	3,809	7,681
流通事業	営業収益	44,304	43,252	87,556
	営業利益	2,390	1,552	3,942
その他事業	営業収益	19,006	22,576	41,582
	営業利益	1,179	1,224	2,404
調整額	営業収益	▲15,655	▲19,098	▲34,754
	営業利益	▲517	▲643	▲1,161
合計	営業収益	156,292	161,477	317,769
	営業利益	21,017	15,115	36,132

All rights reserved. Copyright © TOBU RAILWAY CO.,LTD.

2027年3月期 通期見通し ー 連結キャッシュ・フロー計画

単位：百万円	2026/3期 実績	2027/3期 見込	増減	備考	2027/3期 計画	増減
EBITDA	127,075	131,000	3,925		131,000	-
営業利益	71,861	72,000	139		72,000	-
減価償却費	55,213	59,000	3,787		59,000	-
有利子負債残高	789,673	800,000	10,327		800,000	-
有利子負債/EBITDA倍率	6.2	6.1	▲0.1P		6.1	-
設備投資	102,713	101,500	▲1,213		104,000	▲2,500

All rights reserved. Copyright © TOBU RAILWAY CO.,LTD.

42

2027年3月期 通期見通し ー 運輸事業

単位：百万円	2026/3期 実績	2027/3期 見込	増減	備考	2027/3期 計画	増減
営業収益	218,646	223,700	5,054		221,400	2,300
鉄道	164,272	167,200	2,928		165,300	1,900
その他	54,373	56,500	2,127	バス・タクシー業＋2,076 貨物運送業 ＋ 37	56,100	400
営業利益	27,644	24,400	▲3,244		24,300	100
鉄道	23,583	20,600	▲2,983		20,400	200
その他	4,060	3,800	▲260	バス・タクシー業▲275 貨物運送業 ＋16	3,900	▲100

東武鉄道 旅客人員（単位：百万人）	2026/3期 実績	2027/3期 見込	増減
定期	542	551	1.7%
定期外	335	344	2.7%
（特急）	7	7	2.2%
合計	877	895	2.1%

東武鉄道 旅客収入（単位：百万円）	2026/3期 実績	2027/3期 見込	増減
定期	61,714	62,658	1.5%
定期外	87,593	89,609	2.3%
（特急）	7,609	7,792	2.4%
合計	149,307	152,267	2.0%

※定期外旅客収入は、特急料金、座席指定料金を含む。

All rights reserved. Copyright © TOBU RAILWAY CO.,LTD.

43

2027年3月期 通期見通し ー レジャー事業

単位：百万円	2026/3期 実績	2027/3期 見込	増減	備考		2027/3期 計画	増減
営業収益	189,584	191,300	1,716			199,200	▲7,900
旅行	124,034	124,000	▲34			131,600	▲7,600
ホテル	37,456	38,400	944			38,000	400
スカイツリー	16,536	17,300	764			17,900	▲600
その他	11,557	11,600	43	遊園地・観光業 スポーツ業	▲126 +180	11,700	▲100
営業利益	18,446	18,500	54			19,300	▲800
旅行	2,239	1,900	▲339			2,200	▲300
ホテル	8,350	8,600	250			8,400	200
スカイツリー	6,420	6,800	380			7,200	▲400
その他	1,435	1,200	▲235	遊園地・観光業 スポーツ業	▲271 +13	1,500	▲300

入場者数（単位：万人）	2026/3期 実績	2027/3期 見込	増減
スカイツリー	446	408	▲38

主なホテル稼働率	2026/3期 実績	2027/3期 見込	増減
CY銀座	87.1%	84.7%	▲2.4P
AC銀座	83.4%	81.1%	▲2.3P
錦糸町	90.8%	91.0%	0.2P
成田	89.6%	89.1%	▲0.5P

All rights reserved. Copyright © TOBU RAILWAY CO.,LTD.

44

2027年3月期 通期見通し ー 不動産事業

単位：百万円	2026/3期 実績	2027/3期 見込	増減	備考	2027/3期 計画	増減
営業収益	59,075	64,100	5,025		63,200	900
賃貸	36,498	40,900	4,402		40,600	300
タウン	13,913	14,300	387		13,900	400
分譲	8,662	8,900	238		8,700	200
営業利益	15,892	16,000	108		15,800	200
賃貸	10,694	11,000	306		10,900	100
タウン	3,886	4,000	114		3,900	100
分譲	1,311	1,000	▲311		1,000	-

来場者数 (単位：万人)	2026/3期 実績	2027/3期 見込	増減
スカイツリータウン	3,650	3,601	▲49

分譲販売戸数	2026/3期 実績	2027/3期 見込	増減
戸建住宅	77戸	66戸	▲11戸
マンション	285戸	386戸	101戸
持分換算後分譲販売戸数			
戸建住宅	37戸	30戸	▲7戸
マンション	130戸	141戸	11戸

All rights reserved. Copyright © TOBU RAILWAY CO.,LTD.

45

2027年3月期 通期見通し ー 流通事業

単位：百万円	2026/3期 実績	2027/3期 見込	増減	備考	2027/3期 計画	増減
営業収益	176,135	177,300	1,165		175,400	1,900
百貨店	63,480	64,400	920		62,500	1,900
ストア	75,025	72,200	▲2,825		72,600	▲400
その他	37,630	40,700	3,070		40,300	400
営業利益	6,004	9,200	3,196		8,000	1,200
百貨店	5,293	6,600	1,307		5,200	1,400
ストア	1,057	1,100	43		1,100	-
その他	▲346	1,500	1,846		1,700	▲200

主要百貨店 売上増減率	2026/3期 実績	2027/3期 見込
池袋	4.3%	2.5%
船橋	2.4%	1.2%
宇都宮	0.8%	2.1%

All rights reserved. Copyright © TOBU RAILWAY CO.,LTD.

46

2027年3月期 通期見通し ー その他事業

単位：百万円	2026/3期 実績	2027/3期 見込	増減	備考	2027/3期 計画	増減
営業収益	92,645	96,900	4,255		95,000	1,900
営業利益	6,955	6,400	▲555		7,100	▲700

All rights reserved. Copyright © TOBU RAILWAY CO.,LTD.

47

2027年3月期 通期見通し ー セグメント別参考数値

営業利益ROA（%）

	2026/3期 実績	2027/3期 見込	増減	2027/3期 計画	増減
運輸事業	2.7	2.3	▲0.4P	2.3	-
レジャー事業	6.3	6.0	▲0.3P	6.2	▲0.2P
不動産事業	4.3	4.1	▲0.2P	4.1	-
流通事業	4.2	6.1	1.9P	5.3	0.8P
その他事業	2.2	1.9	▲0.3P	2.2	▲0.3P
全体	4.0	3.8	▲0.2P	3.8	-

EBITDA（百万円）

	2026/3期 実績	2027/3期 見込	増減	2027/3期 計画	増減
運輸事業	60,385	60,600	215	60,300	300
レジャー事業	25,188	25,600	412	26,400	▲800
不動産事業	26,658	27,100	442	26,900	200
流通事業	9,344	12,200	2,856	11,100	1,100
その他事業	8,580	8,000	▲580	8,800	▲800
全体	127,075	131,000	3,925	131,000	-

減価償却費（百万円）

	2026/3期 実績	2027/3期 見込	増減	2027/3期 計画	増減
運輸事業	32,740	36,200	3,460	36,000	200
レジャー事業	6,741	7,100	359	7,100	-
不動産事業	10,766	11,100	334	11,100	-
流通事業	3,339	3,000	▲339	3,100	▲100
その他事業	1,625	1,600	▲25	1,700	▲100
全体	55,213	59,000	3,787	59,000	-

設備投資（百万円）

	2026/3期 実績	2027/3期 見込	増減	2027/3期 計画	増減
運輸事業	53,191	73,700	20,509	73,400	300
レジャー事業	14,404	11,000	▲3,404	11,800	▲800
不動産事業	27,976	7,800	▲20,176	8,900	▲1,100
流通事業	5,494	7,000	1,506	7,600	▲600
その他事業	1,646	2,000	354	2,300	▲300
全体	102,713	101,500	▲1,213	104,000	▲2,500

All rights reserved. Copyright © TOBU RAILWAY CO.,LTD.

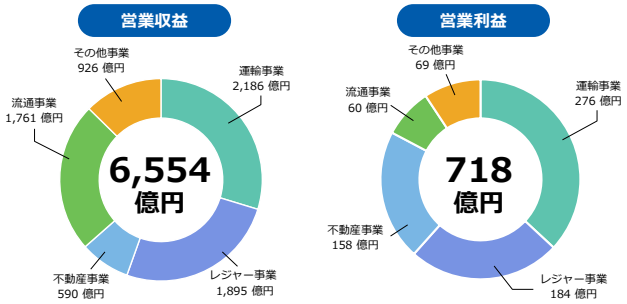
48

会社概要

■ 会社概要

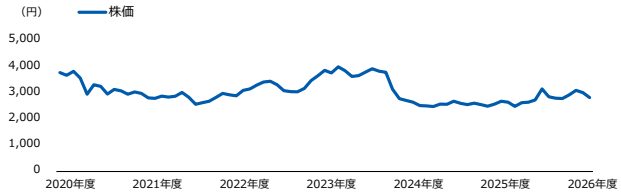
社名	東武鉄道株式会社 （TOBU RAILWAY CO.,LTD.）
設立	1897（明治30）年11月1日
本店所在地	東京都墨田区押上一丁目1番2号
本社事務所	東京都墨田区押上二丁目18番12号
資本金	1,021億3,597万1,747円
連結従業員数	18,294人
事業年度	4月1日から翌年3月31日まで

■ 東武グループ経営状況（2025年度）



※各セグメントの営業収益・営業利益は、連結消去前の金額となっております。

■ 株価推移



All rights reserved. Copyright © TOBU RAILWAY CO.,LTD.

※2026年9月30日現在

事業概要

運輸事業



- 鉄道業、バス・タクシー業、貨物運送業
- 輸送の安全を第一に、きめ細かな行き届いたサービスの提供と、ワンランク上の物流サービスを展開

主なグループ会社

・東武鉄道　・東武バス　・東武デリバリー
・朝日自動車　・東武運輸

レジャー事業



- 旅行業、ホテル業、スカイツリー業をはじめ、遊園地・テーマパーク、スキー、ゴルフ、スポーツクラブ、ロープウェイ、遊覧船等を運営し、お客様の非日常を盛り上げる多様なニーズにお応え

主なグループ会社

・東武鉄道　・東武トップツアーズ　・東武タワースカイツリー
・東武興業　・東武ホテルマネジメント

不動産事業



- 不動産分譲・賃貸・仲介業、 建物・施設管理業
- 良質な不動産の提供や不動産・財産の最適活用のコンサルティング、「東京ソラマチ」の商業運営を遂行

主なグループ会社

・東武鉄道　・東武不動産　・東武タウンソラマチ

流通事業



- 百貨店業、ストア業
- ターミナル駅の特性を活かした都市型百貨店を展開するとともに、東武ストアでは「地域で一番買いやすい店づくり」を目指し、店舗価値向上を推進

主なグループ会社

・東武百貨店　・東武マーケティング　・東武商事
・東武宇都宮百貨店　・東武ストア

その他事業



- 建設・施設設備管理・建材供給・熱供給業
- グループ各社が連携しながら、安心して住み続けられるまちづくりに貢献

主なグループ会社

・東武建設　・東武谷内田建設　・東武ビルマネジメント

All rights reserved. Copyright © TOBU RAILWAY CO.,LTD.

50

東武グループの主な施設

■ 観光施設

施設名	所在地
東京スカイツリー	東京都墨田区
東武動物公園	埼玉県南埼玉郡宮代町
東武ワールドスクウェア	栃木県日光市


▲ 東武動物公園ホワイトタイガーの赤ちゃん（左：コタ 右：ハク）


▲ 東京スカイツリー®


▲ 東武ワールドスクウェア（サグラダ・ファミリア）

■ ホテル

施設名	客室数
コートヤード・マリオット銀座東武ホテル	196
ACホテル・バイ・マリオット東京銀座	296
東武ホテルレバント東京	383
成田東武ホテルエアポート	484
宇都宮東武ホテルグランデ	149
品川東武ホテル	190
渋谷東武ホテル	205
浅草東武ホテル	253
和光市東武ホテル	158
川越東武ホテル	168
ザ・リッツ・カールトン日光	94
フェアフィールド・バイ・マリオット札幌	254
上尾東武ホテル	84
仙台国際ホテル	234
日光アストリアホテル	63
蔵王アストリアホテル	53
日光金谷ホテル	63
中禅寺金谷ホテル	57


▲ コートヤード・マリオット銀座東武ホテル


▲ 日光金谷ホテル

■ 百貨店

支店名	運営会社
池袋店	（株）東武百貨店
船橋店	
宇都宮店	（株）東武宇都宮百貨店
栃木市役所店	


▲ 東武百貨店池袋店

■ ストア

展開地域	店舗数	運営会社
東京都	23	（株）東武ストア
埼玉県	21	
千葉県	12	



▲ 東武ストア竹ノ塚店

■ ショッピングセンター

施設名	店舗数
東京ソラマチ	308
新越谷ヴァリエ	97
草加ヴァリエ	60
浅草エキミセ	31
エキアプレミエ和光	28


▲ 東京ソラマチ（東武タウンソラマチ）

All rights reserved. Copyright © TOBU RAILWAY CO.,LTD.

※2026年9月30日現在

数字で見る東武鉄道

■ 数字で見る東武鉄道

鉄道営業キロ	関東民鉄 No.1 463.3km
旅客駅数	205駅
鉄道車両数	1,772両
輸送人員	8.8億人/年

■ 路線図



All rights reserved. Copyright © TOBU RAILWAY CO.,LTD.

※2026年3月31日現在

当該資料に関する注意事項

この配布資料に記載されている利益等の計画値については、当社および当社グループ会社の事業に関連する業界の動向についての見通し等、国内および諸外国の経済状況その他業績に影響を与える要因について、現時点で入手可能な情報を基にした予想を前提としています。

従って、実際の業績は経営環境等の変化に伴い、この配布資料に記載されている計画値とは異なる場合がありますことをご承知おきください。

All rights reserved. Copyright © TOBU RAILWAY CO.,LTD.